

“京田辺の未来” について考えよう！

高校生・大学生ワークショップ

～第4次京田辺市総合計画策定のための高校生・大学生ワークショップ 結果概要～

令和元年8月9日（金）9：00より、京田辺市役所 305 会議室において、「第4次京田辺市総合計画策定のための高校生・大学生ワークショップ」を開催しました。

11名の高校生・大学生が2班に分かれ、『住み続けたい！一度外に出てもまた戻ってきたい！と思える京田辺市とは？』というテーマで話し合いを行いました。

【市長のまちづくりに対する思い（要旨）】

- 現在、第4次京田辺市総合計画の策定を進めている。基本構想は先日答申され、これからまちづくりプランを作成していくところである。
- 本日参加された皆さんは、縁があって京田辺の高校・大学に通っており、10年後、どんなまちになっていたら良いか、住んで良かったと思えるまち、質の高いまちとはどんなまちか、について考えて頂きたい。
- 京田辺は関西学術研究都市の一翼を担っており、同志社大学との連携を通して環境に関しても最先端のテクノロジーを活用したまちづくりができると思う。また、緑も多いことから、これらをうまく活用して、地域経済が良くなるしくみをつくっていきたいと考えている。
- 私のマニフェストでは、3つの柱を掲げ、その柱を基に5つの分野で30の施策を示しており、その施策を総合計画の中に盛り込んでいきたい。
- 今回のワークショップでは10年後の世界を考えてもらうが、自動運転やドローンの発展なども想像して、柔軟な発想で意見を出して頂きたい。



【グループ発表（要旨）】

■ 1班

- 交通の利便性がある、自然が多いなど、いろいろ良いところがあるが、これらの良いところが現状で活かされていない気がする。
- 京都、奈良、大阪へは行きやすいが、市内の一部の地域では交通が不便な状況になっている。
- 外国人と交流する機会もあまりなく、学生が勉強したり、服を購入する場所も少ない。居酒屋はあるが、若者が集まる場がないと感じている。
- これらのことを踏まえて、京田辺で特に重要なのは、SNS等を活用してPRを行うことだと考えた。
- 今では、ツイッターやインスタグラム等が流行っているが、10年後には技術革新が進み、VR等も活用できると思う。
- 多言語で情報を発信することで、外国人にもアピールし、京田辺の文化に触れてもらえたら良いと思う。



■ 2班

- 大きく2つの視点で課題をまとめており、1つは交通面。街灯が少ない、道が狭い、駐輪場が少ない、市外へは行きやすいが市内の移動が不便、などの意見が出された。
- ただし、交通面に関しては5年後、10年後にどのようなモビリティができていくかわからない部分もあるため、改善策は保留とした。
- もう1つは、全体的な課題を整理した。タピオカやおいしいお茶を飲めるところ、いわゆる“映える場所”が高校の通学路にない。
- 商店街も賑わっておらず、若者が遊ぶ場所が少ない。大学生も自宅と学校を往復するだけになっている。
- そこで、まちづくりをうまく行うことで、世代間交流につなげられないかと考えた。
- 例えば、商店街の空き店舗を有効利用し、若者のたまり場や、自習室、子ども館、高齢者との交流の場をつくる。
- 若者にフォーカスを当てるのであれば、自然を活かしたアスレチックやサバイバルゲームなども考えられる。子どもにとっては大きな公園があると良いと思う。
- 23歳になると他のまちに出て行ってしまいうということだが、住みやすいベッドタウンとすることで、職場が大阪や京都にあっても、京田辺に住んでもらえるのではないかとと思う。



青字：良いところ
赤字：改善が必要なところ
★：重要な意見

1班

安全で心安らく優しいまち <安全・安心>

交通

- ・街灯が少ない。
- ・夜、細い道が危険。
- ・自転車などのマナーが悪い。交通指導が必要。

緑に包まれた美しいまち <緑>

・家が多く建って、畑や山などの自然が取り壊されてきている

自然

- ・公園がたくさんある。
- ・自然が多い。
- ・便利だけど、自然もある

穴場スポット

- ・堤防からの夜景がきれい

ここはPRしない

その他

- ・雇用環境が不足している。
- ・あまりお年寄りの方と子どもの関わりがないようにみられるため、児童館にお年寄りの方を呼び、関わりをつくる



映えの不足



PR

- ・多言語での情報発信
- ・SNSでの情報発信！
- ・ポスター作り

いきいき健康で明るいまち <健康>

- ・ラジオ体操がある。
- ・甘南備園などの散歩コースがある。

子育てしやすく未来を育む文化薫るまち <文化・教育>

教育

- ・オルタナティブな学校が複数ある。
- BUT
- ・外国人との交流の場が不足している。

歴史・文化

- ・一休寺や甘南備園がある。
 - ・有名な一休寺がある。
 - ・“玉露のまち”で有名。もっと京田辺を宣伝するために玉露の店、イベントを開催する
- BUT
- ・特産品、名産品などに対しインパクトが足りない。

活力にみちた便利で快適なまち <田園都市>

娯楽施設の不足

- ・若者が楽しめるような娯楽施設が少ない。
- ・若者が楽しめる場所がないので、服屋さんをつくる。
- ・商店街の衰退が見られるため、活気のある商店街を目指す。
- ・気楽に立ち寄れる場所が少ない
- ・駅前には居酒屋がたくさんあり、カフェなど落ち着ける場所がないので、若者からお年寄りの方までが楽しめるカフェをつくる

学習スペースの不足

- ・高校・大学が不足しているのので、学生が市外に流出してしまう。
- ・学生が友達と自由に自習できるスペースがないので、自習スペースをつくる。

交通の利便性

- ・大阪や京都市に近いので住みやすい。
- ・大阪や京都にも行きやすい。
- ・JRと近鉄の駅が近くの距離にあるため乗り換えが楽である。
- ・新田辺駅、京田辺駅周辺ではスーパー、飲食店、病院などが近く、降りてすぐ行ける距離にある。
- ・高速道路や鉄道などの交通網が整備されている。

交通手段の不足

- ・一部の地域では交通が不便である。
- ・城陽市にはあるが、京田辺市にコミュニティバスがない
- ・京田辺市の南西部の方では電車などの交通機関がない

安全で心安らぐ優しいまち <安全・安心>

- ・災害時用の避難所に最低限の食料、飲み物、毛布が用意されていない。
- ・歩行者、自転車など車と危ない場面になる狭い道路が多い。
- ・防賀川沿いに電灯をつける。
- ★ 駅前のような中心地以外は人が少なく、暗くて夜道が怖い。(特に興戸)

緑に包まれた美しいまち <緑>
自然を利用した世代間交流

- ・のどか。
- ★ お茶がおいしい。
- ・緑が多い。
- ・放置された竹林。

子育てしやすく未来を育む文化薫るまち <文化・教育>

- ・同志社がある。
- ・図書館の本を何冊でも借りることができる。

・プレイパークをつくる。(自然が多い)
 ・若者のたまり場が少ない。
 ・遊べる場所が欲しい。
 ・大学生と街の交流が少ない。
 ・世代を超えた交流が少ない。
 ★ 何人かで話し合いながら勉強できる場所がないので、(予約はありでもなしでもいいが)何人かでできる自習室とフリーの自習室をつくる。
 ・京田辺市には誰もが行きたいと思える劇場(ホール)がないので、約500人規模の設備の整った劇場を建てる。

重要 **遊べて交流できる場所**

バーベキュー、アスレチック、サバゲーができる場所

インフラの整備 (灯りが必要) (交通安全)

青字：良いところ
 赤字：改善が必要なところ
 ★：重要な意見

空き店舗の有効利用

活力にみちた便利で快適なまち <田園都市>

・アマゾンなどネット販売に頼りすぎて町に人がいなくなる。
 ・都市化と地方の良い所のバランスを考える

いきいき健康で明るいまち <健康>

- ・人口が多い。
- ・障害を持った方が出歩けるまち。
- ・おじいちゃん、おばあちゃんが元気。
- ・老若男女たくさんくらしている。
- ・工場少ない。
- ・福祉系の事業が多い??少ない??
- ・病院が多い。
- ・高齢者の多い社会になってきた。その高齢者の方が安心して暮らせる。ここはいい!と思って暮らせる市にするため、バリアフリーなど、まちにある段差をなくすか、少なくする。
- ・部活の合宿や普段の練習だけでも、体育館やテニスコートがとれなくてできないことがある。なので体育館やテニスコートがある宿泊所(施設)を建てる。

重要

商店街

- ・生活に必要なものがそろう。
- ・新田辺周辺は栄えている。
- ・カラオケが安い。
- ・通学路に居酒屋がある。
- ・通学路側の店がにぎわっていない。
- ★ 商店街の活性化。
- ・きれいな店が少ない。
- ・夜の活気が少ない。新田辺駅前のみ。夜まで楽しめる施設や店があればよい。
- ・通学路の整備をしてほしい。例としてタピオカのお店を作ったらどうでしょうか。

交通

- ・近鉄の駅と JR の駅があるので、大阪・京都・奈良に行きやすい。
- ・バスのロータリーがきれい
- ・無料の駐輪場をつくる、または 100 円バスを走らせる。
- ・車がなければ行きづらい場所が多い。交通手段の改善。
- ・市内の交通の便がイマイチ。

その他

- ・人がこわい。

観光

- ・寺が多く歴史を感じる
- ★ 国宝など重要な文化財が多くある。ツアー等を企画する。
- ・一休寺は京田辺市の誇りなので、もっと多くの人(特に外国の方)が来てくれる、行ってみようかなと思ってもらえうために、ガイドツアーを広める
- ・誇るべき文化財や特産があるのに知られていない。プロモーション不足。メディアを利用、大学生をつかう。

【市長との意見交換（要旨）】

市長：京田辺のまちは緑が多いと思うか。また、その緑をどうしていったら良いと思うか。

参加者：緑を活用してほしいと思う。

市長：まちづくりにあたっては開発と保全があり、税収を増やすためには開発が必要となる。一方、憩いの場として保全も必要である。緑を守るだけでなく活用してほしい、というプラス思考を持っていることは良いことだと思う。

意見の中に“映えの不足”とあるが、これは、その場所を人工的に作るのか、穴場を探すのか。

参加者：大学生にとっては、京田辺のすべてが穴場だと思っている。

市長：今回意見が出された「木津川の堤防からみた夜景」は、私としては意識していなかった。

みんなが“映える”思っているところを探すのも良い。

10年先に社会がどう変化しているのかわからないが、ドローン等を使って人が空を飛んでいたり、交通の在り方が根本的に変わっているかもしれない。また、店員と顔を合わせた商品のやり取りがなくなっているかもしれない。

そのような中で、高齢者と高齢者、若者と高齢者、外国人も含めて、どのようにコミュニケーションをとっていくのが重要になるのでは、と考えている。



【とりまとめ（要旨）】

- これからのまちづくりの主人公は君たちであり、5年先には進学しているか、働いているか、何かしていると思うが、その時に、まちの主人公として関わってほしいと思う。
- まちづくりに関わるにあたって3つのキーワードがある。1つは、そのまちのことを知ること。今回、ワークショップの前に宿題が出されたので、京田辺のことも調べてもらったと思うが、まずは知ってもらおう。
- 2つ目は、まちのことを考えてもらいたい。良いところ、改善するところ、どうしたらまちが良くなるか、いろいろ考えてもらいたい。
- 3つ目は、これが非常に大事で、未来のことも考えてもらいたい。今回のワークショップの結果がまちづくりプランに盛り込まれたら、未来に関わったことになる。
- 今回、“映え”など、参考になるアイデア、キーワードがたくさんあったと思う。貴重な意見を頂いたので感謝したい。
- 今後、とりまとめの段階で、また意見を聞くかもしれないので、その時は協力をお願いしたい。

